

22	碧海	高浜市立高浜小学校	ミノダ タカユキ 藪田 隆幸
分科会番号	11	分科会名	保健体育（体育）

心を解放し、表現豊かに踊る生徒の育成

—「くずし」に着目した、中3保健体育科「ダンス」の実践を通して—

1 はじめに

令和5年1月、私は「未来の体育共創サミット2023」に参加した。その中で私は松下隼司氏による「めっちゃ楽しいダンス授業」が非常に印象に残った。「ダンスは表情。一糸乱れぬダンスを踊っていても無表情では意味がない。どれだけ心を解放して、楽しそうに踊っているかが大事である」という松下氏の言葉に感銘を受けたからである。

ダンス領域の最大の目標は「踊ることの楽しさや喜びを味わうこと」である。しかし実際の現場に目を向けると、教師主導や映像資料による決められた振り付けの習得のみに留まるものや、運動会や文化祭のための作品練習をそのまま授業として扱い終わってしまうものなど、踊ることの楽しさや喜びに迫れていないケースが多い。実際、私もこれまでのダンス授業では、完成度ばかりに目がいき、生徒たちがどんな表情で踊っているか、どれだけ楽しそうに踊っているかに着目していなかった。松下氏の話聞いて、私は生徒たちが心を解放して踊り、その中で表現力を高めることのできる授業を展開したいと考えようになった。

2 研究主題設定の理由

ある給食の時間、放送で生徒たちが利用するSNS、TikTokで流行っている曲が流れた際、多くの生徒がその曲に合わせて踊っていた。休み時間には流行りのアーティストの曲を友達と踊る姿もしばしば見られる。また、たとえ踊らなくとも、音楽が流れると首を縦に振ったり、身体を揺すったりしながらリズムをとる生徒たちの姿を見る。もっというと、生徒たちは身振り手振りといったジェスチャーを用いて友達とよく話をしている。生徒たちにとってダンス・身体表現は非常に身近である。こうした特性を村田(1998)は、「誰もが『躍りたい』『変身したい』という欲求を内にもっている」「誰もがみんなダンサーである」と述べている。このように、ダンス・身体表現は生徒たちだけでなく、私たち人間にとっても身近なものだと言える。しかしながら昨年度ダンスの授業を行った際、楽しそうに踊る生徒がいる一方で、なかなか踊れずに苦勞する生徒がいた。普段教室で自然と身体を揺すっている生徒たちが、曲が流れても踊れないということがあった。このことから生徒たちにとっての身近なダンスと、授業で行うダンスの間には大きなギャップがあるのではないかと考えるようになった。

そこで今年度単元を行うにあたり、生徒たちのダンスに対する思いを把握するため、中学校3年生のダンス選択者29人を対象に事前アンケートを実施した。「ダンスは好きですか?」という質問に対しては23人という多くの生徒が「とても好き、まあまあ好き」と回答したが、「学校でダンスを踊ることに抵抗はありますか?」という質問に対しては、19人の生徒が「とてもある、まあまあある」と回答した(資料1)。その理由は「見られることが恥ずかしいから」「間違えてしまうから」「踊り方が分からないから」などであった。このことから、私は本来ダンスが好きな生徒たちが、学校で踊ることに抵抗を感じている要因には、様々な「心理的ハードル」(酒向、2015)が生じているからだと考えた。また、学習指導要領のダンス領域の目標には、「仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて

資料1 事前アンケート



資料2 四つのくずし

- ① 身体のかずし
— 身体の動きの変化(ねじる、回る、跳ぶなど)
- ② リズムのかずし
— リズムの変化(すばやく、ゆっくり、急に止まるなど)
- ③ 空間のかずし
— 方向や場の使い方の変化(上下左右、他の場所への移動)
- ④ 人間関係のかずし
— 仲間との関わり合いの変化(離れる、くっつく、反対、くぐりぬけるなど)

自己を表現したりすることの楽しさや喜びを味わうこと」とある。つまり、「豊かに自己を表現する」ことを通して「踊ることの楽しさや喜びを味わう」ことが最大の目標だと言える。これらのことから、私は生徒たちの心理的ハードルを取り除き、踊ることそのものを楽しむ単元を構想することで、生徒たちが心を解放して踊る姿を引

き出したいと考えた。また、表現豊かに踊る姿を引き出したいと考えた。そこで私は、村田が提唱する「くずし」を基に、研究・実践を進めることとした。村田は心の解放のことを「心のくずし」、踊りの動きの変化のことを「四つのくずし」と表現している（資料2）。本単元ではこの「心のくずし」と「四つのくずし」に着目して研究を進めていく。

3 目指す生徒像

研究テーマから、目指す生徒像を次のように設定した。

目指す生徒像

- I 心を解放して踊り、踊ることの楽しさや喜びを味わう生徒
- II 表現豊かに踊る生徒

4 研究の仮説と手だて

(1) 仮説について

目指す生徒像に迫るため、次のように仮説を立てた。

仮説①（目指す生徒像 I に対して）

生徒の心理的ハードルを取り除くような場の工夫や授業導入時の工夫、単元の工夫を凝らせば、生徒たちの「踊りたい」という思いがくすぐられ、心を解放して踊り、その楽しさや喜びを味わえるだろう。

仮説②（目指す生徒像 II に対して）

四つのくずしを用いる課題を与えたり、課題に対する考えを仲間と共有して試す機会を設けたりすれば、自己表現の幅が広がり、表現豊かに踊ることができるだろう。

(1) 手だてについて

仮説を検証するため、次のような手だてを講じる。

仮説①に対して（心を解放して踊り、踊ることの楽しさや喜びを味わうために）

ア 場の工夫

照明や BGM、生徒たちが踊る場所などの様々な場において、心理的ハードルが取り除かれるような工夫を凝らす。

イ ウォーミングアップ（以下、W-UP）の工夫

多くの仲間と関わり、運動量が豊富で心と身体が温まるような W-UP を、授業導入時に取り入れる。

ウ 「くずし」を楽しむ単元構想

生徒たちの心理的ハードルの原因となる「見せ合い」や「正しい踊り方」などを取り除き、「くずし」を楽しむ単元を構想する。

仮説②に対して（表現豊かに踊るために）

ア 「四つのくずし」に着目した課題設定

身体の動かし方に変化を起こす「四つのくずしにはどんな動きがあるかな」という課題を設定する。

イ 「何でもツイート」（森、2022）による考えの共有

「何でもツイート」を活用して考えを共有し、仲間の考えた課題解決の方法から新たな動きを発見したり、試したりすることができるようにする

5 研究の方法

(1) 検証の方法

仮説を検証するために、単元全 8 時間の中で生徒の心の変容、動きの変容を見取る。そのために、単元前後のアンケート、生徒との会話記録、授業時の静止画、振り返りシート、何でもツイートなどから仮説に対する手だての有効性を検証する。なお、生徒がどれだけ心を解放して踊ることができたかを測るために、「心のバロメーター」を使う（資料3）。「心のバロメーター」とは、自分の心に見立てたハートを塗りつぶして数値化することで、自分の心がどれだけくずれたか（解放されたか）を振り返ることができる、私が考案したものである。

(2) 抽出生徒

生徒 A

生徒 A は、授業で積極的に自分の思いや考えを述べたり、担任とよく話をしたりする。そのため、思考をたどりやすいと考えた。事前アンケートには、ダンスは好きだが学校でダンスを踊ることへの抵抗は「まあまあある」と答えた。その理由に、「みんなの前で踊るのは抵抗があるから」と記述した。そのため、「見せ合い」を取り除き、四つのくずしを楽しむ生徒 A の姿に迫りたい。

資料3 心のバロメーター



生徒B

身体を動かすことへは少し消極的なところがあるが、仲間の前やワークシートなどに積極的に自分の思いや考えを述べるができる。事前アンケートにて、ダンスは「あまり好きでない」、学校でダンスを踊ることへの抵抗は「まあまあある」と答えた。その理由に、「自由に表現していいからこそこのようにしたらいいか分からないから」と記述した。そのため、気軽に踊れる場を設定して、心を解放する姿に迫りたい。また、四つのくずしを意識して身体を動かしたり、何でもツイートで仲間の動きを試したりすることで、踊り方が分かり、表現豊かに踊る姿にも迫りたい。

6 実践と考察

(1) 場の工夫～仮説①手だてア～

事前アンケートから、多くの生徒たちに「見られることが恥ずかしい」「間違えてしまう」「踊り方が分からない」という心理的ハードルが生じていることが分かった。そのため、それらの心理的ハードルになり得るものを取り除くような場の工夫をした。空間を暗くしてミラーボールを光らせたり、BGMを大音量で常に流し続けたりして、思わず踊りたくなるような場となるよう工夫した。また、生徒たちが躍る場は、興味が湧くような5つのブース(①気軽にダンシング、②なりきり新聞紙、③ドロイーグ、④ダンレボ&ダンエボ、⑤ジェスチャーゲーム)を設定した。ゲーム感覚で楽しく踊れたり、簡単に踊れたりする場である。さらに、自分の踊りたい曲(流行の曲やクラシックなど)を用意し、プレーヤーやテレビで流して踊れるようにした。これら様々な場で、生徒たちは自分の好きな場所、曲を選び、思い思いに踊った。

生徒Aは単元を通して様々な場所で踊ることを楽しんだ。第1時、初めてこの場に出会った生徒Aは、「踊りたい」という思いからか、5つすべての場で踊った。そしてその日の振り返りシートに、資料4①「結構薄暗かったので、相手の顔もあんまり見えないし、自分の顔とかダンスもそんなに見えないと思うので踊りやすかった」と記述した。暗闇にミラーボールをつける場の工夫が生徒Aの恥ずかしさを取り除いたと考えることができる(写真1)。また、②「コロコロ場所を変えながらいろんなダンスができたので、飽きずにずっとダンスを楽しめました」、「自由に踊れて面白かったです」との記述から、様々な踊りが体験できる場を用意したからこそ、心を解放して踊ることに繋がったと考える。生徒Aにとって、心理的ハードルを取り除くような場の工夫は、心の解放に大いに繋がった。

生徒Bも同様に単元を通して様々な場所で踊った。生徒Bは単元前半、なかなか心を解放して踊ることができずにいたが、単元の第4時の9/19(火)には、資料5①「恥ずかしさもだいぶ減ってきて自分からダンスを楽しむことができてきました」と記述し、心を80%もくずした。中でも②「光が消えているというのもあって」という記述から、生徒Bにとっても暗くした空間が恥ずかしさを取り除く要因であったと考えることができる。また、③「自分なりの曲に乗って楽しむことができました」という記述からは、自分で曲を選んで踊ることができる場の設定が心の解放に繋がったと考えることができる。生徒Bも場の工夫によって心を解放して踊ることができた。生徒たちの心理的ハードルを取り除いたことで、人間本来のもつ「踊りたい!」という思いを引き出し、心の解放につながったと考える。

(2) W-UPの工夫～仮説①手だてイ～

ダンスの授業において、いきなり「さあ、踊るよ!」と言われてもなかなか難しい。それは心も身体も温まっておらず、踊る状態になっていないからだと考える。そこで、心と身体が温まるようにW-UPを工夫し、「ダンスじゃんけんゲーム」を行った。ダンスじゃんけんゲームは、大塚愛の「さくらんぼ」の曲に合わせ、ペアで向き合って簡単な振り付けを行った後にじゃんけんをする私が考案したものである。曲に合わせてペアをどんどん替えながら行うのでいろいろな

資料4 生徒Aの第1時の感想

① 結構薄暗かったので相手の顔もあんまり見えないし、自分の顔とかダンスもそんなに見えないと思うので踊りやすかったです。ダンスのブースがたくさんあってコロコロ場所を変えながらいろんなダンスができたので、飽きずにずっとダンスを楽しめました。ジェスチャーや新聞紙、ドロイーグは自分の自由に踊れて面白かったです。



写真1「暗くて踊りやすいね」

資料5 生徒Bの場についての振り返り

振り返りシート 9/19(火)

その理由は？
前は半分以上心のバロメーターが満ちたので、みんなの意見を見ながらダンエボでハイタッチをしたりしてアレンジができて、楽しみ方を工夫できたからです。

心のバロメーター

心のくずし 80%

① 恥ずかしさもだいぶ減ってきて自分からダンスを楽しむことができてきました。
② 光が消えているというのもあって自分なりの曲に乗って楽しむことができました。



写真2「チョキで負けちゃった」

と踊ることができ、運動量が豊富なことが特徴である。また、ゲーム感覚でできるので勝っても負けても面白いことも魅力である。

生徒Aは初日、初めて W-UP のダンスじゃんけんゲームをした。ペアチェンジをしている人々と踊り、ゲームを楽しんだ(前項写真2)。その日の振り返りシートに、資料6①「いろいろな人と踊ってテンションを上げることができた」

と記述し、75%も心がくずせていた。W-UPによって生徒Aの心が解放されたことで、気持ちも高揚したと捉えることができる。また、②「たくさんの人と交流できるのが楽しかった」との記述から、生徒Aにとっていろいろな人と踊れたことが、楽しさに繋がったようだ。生徒AはW-UPによって心を解放させることができた。

生徒Bもいろいろな人とのダンスじゃんけんゲームを楽しんだ。初めてじゃんけんゲームをしたあと感想を聞くと、資料7③「めっちゃ暑いですね。息が上がりました」と話した。5分程度踊り続けたため息が上がったようだ。しかしそう思えるくらい、運動量が確保できたことが生徒Bの発言から分かる。そして、少々疲れながらも生徒Bも④「楽しかった」と話した。生徒Bにとって、運動量が豊富なW-UPにより、心と身体が温まったことが分かる。心と身体を温めるこのダンスじゃんけんゲームを取り入れたW-UPは、心を解放するための手だてとして有効であったと考える。


心と身体を温めるこのダンスじゃんけんゲームを取り入れたW-UPは、心を解放するための手だてとして有効であったと考える。

(3) 「くずし」を楽しむ単元構想～仮説①手だてウ～

生徒たちの心理的ハードルに、「間違えてしまう」「踊り方が分からない」も多くあった。それは生徒たちに、ダンスは完璧に踊らないといけないもの、踊り方が難しいものだというこれまでの経験から得た固定観念があるからだと言える。そのため、それらの心理的ハードルの原因となる「見せ合い」や「正しい踊り方」を取り除き、生徒たちが①身体、②リズム、③空間、④人間関係のいずれかを自由にくずす(変化を起こす)ことを楽しんで踊る単元を構想した。

資料8から、生徒Aは第3時の9/12(火)、①「BGMの速さを速くして踊って楽しかった」、②「速度を遅くして踊ったら踊りやすくて楽しかった」、③「速くするとより面白かった」と、速さについて記述した。②リズムをくずして踊ることを楽しんでいることが分かる。そして「楽しかった」「面白かった」という感想や、心を80%もくずしていることが⑥から、心を解放して踊ることができたと考えられる。また、第8時の9/27(水)には、④「空間をめっちゃ崩して踊っていたのがすごくて、自分も大きく動いてみた」と③空間をくずして踊ったり、⑤「あまり一緒に踊らない人ともハイタッチしたり、手をつないで回った」と、④人間関係をくずして踊ったりすることを楽しんだ。心のくずしも100%であることから、思いきり心を解放して踊ることができた。また、⑥「全力で踊ったり、大きく踊ったりしたら、上手い下手とかを気にせずに踊れたので楽しかった」との記述から、「正しい踊り方」という心理的ハードルが取り除かれ、くずしを楽しむ姿に迫れたと考える。生徒Aは単元を通して、四つのくずしができるようになっていく経験に楽しさを感じ、心を解放した。



資料6 生徒AのW-UPについての振り返り

その理由は？ ① ・初めのさくらんぼでいろんな人と踊ってテンションを上げることができたから。	心のバロメーター  心のくずし 75%
感想 初めのさくらんぼで他のクラスの人などいろんな人と踊って楽しかったです。ダンスをすることでたくさんの人と交流できるのが楽しかったです。	



資料7 生徒Bとの会話(T:教師 B:生徒B)

T: じゃんけんゲームどうだった？
B: ③めっちゃ暑いですね。息が上がりました。
T: ちょっと長かったかな？
B: まあ。でも、いろんな人とできて④楽しかったので。

資料8 生徒Aの心の変容

振り返りシート 9/12(火) その理由は？ ① ・BGMの速さを速くして踊って楽しかったから。 ・クラシックの音楽をゆっくりになると、子守唄みたいになって心地よい音楽になったので、それで踊るのが②楽しかったから。 ・ダンスの難しいやつを速度を遅くして踊ったら踊りやすくて楽しかったから。 ・踊り慣れているダンスや簡単なダンス(ジャンボリーミッキーや女々しく)を速くするとより面白かったから。	心のバロメーター  心のくずし 80%
振り返りシート 9/27(水) その理由は？ ・ダンスダンスエポリューションで、両足で跳ぶのを友達とだけできなく、他の人にも広めて、一緒にできたから。 ・他のクラスの人とかと踊ったから。いつも一緒に踊っている友達の他にも、あまり喋らない人や他のクラスの人とかいろんな人とダンスエポを踊りして楽しかったから。 ・友達ダンスを見て、大きく動く空間をめっちゃ崩して踊っていたのがすごくて、自分も大きく動いてみたから。 ・気持にダンス⑤でいつも一緒にやっている〇〇ちゃんだけでなく、あまり一緒に踊らない人ともハイタッチしたり手を繋いで回ったりして、距離が縮まったから。	心のバロメーター  心のくずし 100%

資料9 生徒Bの心の変容

振り返りシート 9/8(金) その理由は？ やっぱりまだ恥ずかしさが自分の中にあって楽しく表現できていないからです。前回に比べると少しずつできていますけど、初めてに書いたように正解がないからそこのように表現したら良いのかわからないからです。	心のバロメーター  心のくずし 30%
振り返りシート 9/27(水) その理由は？ 授業が後半になるにつれて4つのくずしをそれぞれ意識することができて、今日は特に今まであまりできていなかった人間関係のくずしに挑戦することができたからです。	心のバロメーター  心のくずし 100%

生徒Bの主な心理的ハードルは「踊り方が分からない」であった。そのため第2時の9/8(金)、前項資料9⑦「正解がないからこそのように表現したら良いのかわからない」と記述し、心のくずしも30%と低かった。生徒Bは単元序盤、まだ踊り方が分からず、心を解放して踊ることができずにいた。しかし四つのくずしを意識して踊るようになると、少しずつ心も解放していった。単元の中盤、生徒Bと話す機会があった(資料10)。だんだん心が解放してきたことについて尋ねると、⑧「少しは踊れるようになった」と話した。また、その理由については⑨「身体をくずせば、踊れるって分かった」と話した。そして、第8時の9/27(水)には⑩「授業が後半になるにつれて4つのくずしをそれぞれ意識することができて、今日は特に今まであまりできていなかった人間関係のくずしに挑戦することができた」と記述し、心のくずしも100%に達した。生徒Bの記述から、単元を通して四つのくずしを楽しむことができたことが分かる。踊り方が分からなかった生徒Bは、くずしを楽しむ単元構想により、踊り方を分かっているいき、心を解放していった。くずしを楽しむ単元構想は、生徒たちの心を解放する手だてとして有効にはたらいたと考える。

資料10 生徒Bとの会話(T:教師 B:生徒B)

T:だんだん心が解放してきたね!
 B:う〜ん。⑧少しは踊れるようになったかもしれません。
 T:なんで踊れるようになってきたの?
 B:⑨身体をくずせば、踊れるって分かったので。
 T:なるほどね。

(4)「四つのくずし」に着目した課題設定～仮説②手だてア～

学習指導要領のダンス領域「知識及び技能」の目標に「緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現する」とある。仮説①では心の解放を目指した手だてを講じてきたが、心を解放したうえで、この目標に迫り「表現豊かに踊る」ことを目指したいと考えた。そこで「四つのくずし」に着目し、「四つのくずしにはどんな動きがあるかな」という課題を設定し、生徒たち与えた。生徒たちは様々なダンスを踊りながら、四つのくずしにはどんな動きがあるのか、課題の答えを探した。



写真3 「空間をくずしたらより伝わるね」

資料11 生徒Aの「空間のくずし」についての振り返り

① ジェスチャーで感情を伝えるのが難しかったです。でも、大きく動いたり、空間全体を使って、相手に伝わるように踊ったりジェスチャーして楽しかったです。

写真3は生徒Aがジェスチャーゲームを踊る様子である。生徒Aは初め、踊る場所であるマットの上からそう大きく動かずに踊っていた(写真3左)。しかし、四つのくずしに着目した課題を探究して踊ったことで動きに変化を起こした。単元中盤のジェスチャーゲームでは、空間をくずして踊った(写真3右)。写真3右を見ると、マットからはみ出すほど、空間をくずして踊っていることが分かる。そして、その日の振り返りシートには、資料11①「大きく動いたり、空間全体を使って、相手に伝わるように踊ったりジェスチャーして楽しかった」と記述した。表現の幅が広がり、より豊かになったと言える。また、生徒Bは、資料12②「いままでの授業ではそんなに恥ずかしくて、意識をしていなかった『体を大きく動かす』に挑戦できた」との記述からも分かるように、単元前半は身体を大きく動かすことができなかったようだが(写真4左)、課題を探究していく中で、身体にくずしである、「大きく動かす」ことができていった(写真4右)。写真4右を見ると肘や足が伸び大きく動かしていることが分かる。生徒Bも表現の幅を広げて踊ることができたと言える。「四つのくずしにはどんな動きがあるかな」という課題の設定は、表現豊かに踊るための手だてとして有効であったと考える。



写真4 「身体を大きく動かしてみたよ」

資料12 生徒Bの「身体にくずし」についての振り返り

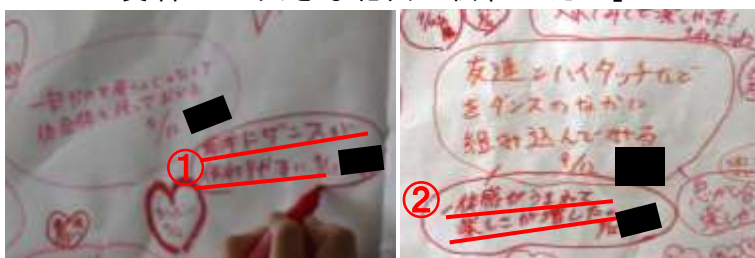
② いままでの授業ではそんなに恥ずかしくて、意識をしていなかった『体を大きく動かす』に挑戦できた

(5)「何でもツイート」による考えの共有～仮説②手だてイ～

生徒たちがさらに表現豊かに踊ることができるようにするために、「何でもツイート」を活用して、意見を全体で共有した。そうすることで、仲間が発見した動きをいつでも見ることができ、新たな動きを試すことができると考えた。①身体にくずし(ピンク)、②リズムにくずし(青)、③空間にくずし(緑)、④人間関係にくずし(オレンジ)でツイートし、

資料 13 「大きな花火が伝わった！」

試してみた気持ちを(赤)、「いいね」を♥(ハート)でツイートするように統一した。生徒たちは見つけた動きを積極的にツイートし、互いの意見を共有した。生徒Aは①身体にくずしの中から、「一部だけを使うんじゃなくて、身体全体を使って踊る」という仲間のツイートを見て、



大きく動かすことを意識して踊った。そして、見ている仲間により伝わったため、①「相手にダンスが伝わりやすい」と記述した(資料13左)。①身体にくずしにおいて、仲間のツイートを試したことで、表現がより豊かになったと言える。また、生徒Bは④人間関係の崩しの中から、「友達とのハイタッチなどをダンスのなかに組み込んでみる」という仲間のツイートを見て、ダンエボの振り付けの中にハイタッチを入れて踊った。そして、②「一体感がうまれて楽しさが増した」と記述した(資料13右)。生徒Bも仲間のツイートを試したことで、表現がより豊かになったと言える。単元を通して模造紙には多くの生徒によるツイートが書き溜められた。「何でもツイート」の活用は非常に有効であったと考える。

7 成果と課題

本研究により、生徒たちのダンスに対する思いにどれだけ変化が生じたのかを把握するため、単元終了後にもアンケートを実施した。「学校でダンスを踊ることに抵抗はありますか？」の質問に対して、「全くない、あまりない」と回答した生徒が単元前の10人から25人と増えた(資料14)。大きな成果と考えたい。生徒Aは単元を通して、ダンスは「とても好き」、抵抗は「全くない」に変わった。単元の感想には、資料15①「いろいろな要素を変化させて、心をくずしてダンスを楽しみたい」と記述した。もし今後ダンスを踊るときがあれば、本単元の学びを生かしたいと考えていた。また、生徒Bは単元を通して、ダンスは「まあ好き」、抵抗は「あまりない」に変わった。単元後の感想から、資料16②「振り付けがキレキレで揃っているイメージがあって～中略～変になってしまわないか心配でした」という単元前の思いが、③「ダンスに正解とかは特になくて身体を動かして楽しむことがダンスだと考えが変わりました」と単元後には変わったことが分かる。生徒Bは単元を通して、ダンスに対する抵抗がなくなり、ダンスが楽しいものと学んだことが読み取れる。

資料 14 事後アンケート



「くずし」に着目したダンスの実践を行ったことが、心を解放して、心の底からダンスを楽しむ生徒たちの姿や、四つのくずしを駆使して、表現豊かに踊ることに繋がった要素の一つと考える。これは、ダンス実践における大きな一歩と考えたい。単元の後半、踊っている動画を撮影している生徒を見つけた。なんで撮っているのかを聞くと「いい感じで踊れたので友達に見せたくて」と話した。ダンスを見せることが心理的ハードルになると考えていたが、心を解放し、自分のダンスに自信がもてると「見せたい！」とも思うのだろうか。私のダンス実践における新たな課題である。

資料 15 生徒Aの単元後の感想

この授業を通して、自分の踊りやすいように踊った方が楽しいと思いました。なので、これからダンスをするときは、自分なりのアレンジを加えたり、一緒に踊る人とも交流したり、複数人で踊ってみたいですね。① いろいろな要素を変化させて、自分の心をくずしてダンスを楽しみたいです。

資料 16 生徒Bの単元後の感想

私の中のダンスのイメージは複数人のダンサーの人たちが踊って振り付けがキレキレで揃っているイメージがあって経験者と未経験者とは魅せ方のうまさが違うと思っていました。あとダンスはいろんな種類があって正解がないからこそ表現が難しいし、変になってしまわないか心配でした。③ 私が授業の中で思ったことはダンスに正解とかは特にはなくて身体を動かして楽しむことがダンスだと考えが変わりました。

8 おわりに

単元終了後、休み時間に生徒Aが「昨日『ラヴィット！(朝の情報番組)』で高速ダンスのやつやってたんですよ！すごかったです！リズムのくずしですね。」とタブレットを見せて話しかけてきた。なんで注目したのかを聞くと、「授業でダンスをやって興味をもったので目に入りました。」と話した。ダンスの授業を経てさらに興味をもったようだ。また、生徒Bは単元終了後、①「姉がダンス部に入っているので発表をしていました。いろんな種類のダンスがあっておもしろかったです。」と、姉のダンスの発表を見に行ったことを日記に綴った。「どうだった？」と聞くと、嬉しそうに「めっちゃ格好良かったです！」と話した。生涯にわたってダンスに親しむということを考えたとき、生徒A、Bのようにダンスを見ることも楽しみ方の一つである。本単元でダンスの楽しさを学んだ生徒たちが、今後あらゆる視点から、生涯にわたってダンスに親しんでいってくれることを願う。